

小、中学生163人がうれし卒業

3月 町内の小、中学校から163人の児童、生徒が新しい門出を迎えました。幼児センターでも昨年より7人多い73人がうれし卒業。それぞれに新たな旅立ちを迎えました。

18日、第112回卒業式を迎えた東川第一小学校(澤田安男校長)では5人が6年間の学びやに別れを告げました。一人ひとり卒業証書を手にし、「4月からは東川中学校に進学します。大勢の



中で学び、大勢の中で運動してたくさん友達を作ってください。いつも楽しく、自信を持って活躍してください」と励ましの言葉を贈りました。同校では3年前から同校を卒業した先輩を卒業式に招いています。今年度は1951(昭和26)年に卒業した第52回卒業生41人のうち、お元気な38人に案内状を送り、11人が出席。小さな先輩たちの晴れ姿を見て目頭

を押さえています。案内状を送った中には、出席予定だったものの、73歳で直前に亡くなった元札幌手稲高校長、故大澤征次さんの名前も。2月に自費出版したばかりの「教育はお互いである」(B5版164頁、札幌福祉印刷)の本が届き、皆さんで生前をしのんでいました。



町内の他小学校の卒業生は、東川小72人、第二小4人、第三小3人となりました。

東川中学校(森雅則校長)では14日

に卒業式を行い79人が希望の進路に向かって旅立ちを迎えました。一人ひとり森校長から卒業証書を受け取り、3年間ともに過ごした学習椅子を手に学びやをあとにしました。森校長は「これからは自分に何ができるのか、何をすべきなのかを自分で考えていかねければならない。未来は誰も教えてはくれない。君たち自身が考え、夢と希望を忘れず、あきらめず追いかけてほしい」と門出の言葉を贈りました。

ももんがの木に卒業記念の名札張ったよ

幼児センター(伊藤和代園長)では3月、73人のお友達が卒業しました。最後の卒業記念は、恒例の「メモリー葉」名札張り。自分の名前を書いた木の葉っぱを一人ずつ壁に張って卒業記念の最後の仕上げを終わりました。廊下の壁一面に大きな枝を広げてい

る「ももんがの木の大きな木」は、毎年卒業生の名前の葉っぱが増えていきます。今年度は4年目。これでお友達の名前は延べ287人に増えました。1年生になるみんなは、一生懸命練習した自分の名前をしっかり書けるようになりました。「恐かったよ」と

ちよつと勇気を出して高いところに上ることができるようになりました。この日の葉っぱは、小学校を卒業する日に、幼稚園の思い出としてプレゼントされます。



ウズベキスタン外交関係樹立20周年記念展



開催を祝ってテープカット(中央がイスラムジャノヴィチ大使)

東京に続いて国内2番目の開催。ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金海外事務所を通して、同国の歴史、民族、文化的価値を紹介する企画です。同国内6人と、ドイツ生まれのファッション写真家、アンドレ・ラウ氏を加えた海外7人が、タシケント、サマルカンド、ブハラ、ヒヴァ4都市で撮影。モスク、霊廟など美しい歴史的建造物の数々、人々の表情や独特の民族衣装、現在活躍している俳優、歌手などのポートレート作品50点を展示して、長い歴史と深い文化の特徴を伝えてい

ました。3月4日、日本メディアカルプロダクツ(株)(旭川、山本倫生社長)が東川工場建設用地(北町4丁目)で医療用キット製品製造工場の建設起工式を行いました。山本信男会長、山本倫生社長、松岡市郎町長ら関係者約40人が出席し、工事の安全と新工場の無事完成を祈願しました。同社の医療用キット製品の製造は、

1年後の完成目指して日本メディアカル工場着工

新工場の完成によって本社工場から将来全面移管する計画。「見える工場」として、自動搬送システム、自動化製造ライン、梱包、包装の一連の製造工程を見学することができるよう配慮されているそうです。

来年1月に完成、2月稼働、3月から本格生産に入る予定で、これまで従業員の経験に頼っていた工程を高度に自動化できるため、現製造工場に比べ

森林組合の斉藤さん、町内第1号の青年林業士に

東川町森林組合職員、斉藤仁泰さん(41)が新たに北海道青年林業士に認定されました。3月12日、上川総合振興局南部森林室の塚田茂樹室長が来庁して認定証の交付を行い、町内第1号の青年林業士が誕生しました。



森林組合の業務課長として勤める傍ら、自ら15ヘクタールの森林を所有し、3年生から55年生まで幅広い林齢構成の人工林を育成、安定的な森林経営を目指しています。

若手リーダーとして作業システムの効率化、施業の集約化など地域の森づくりを期待されており「おいしい水、うまい空気、豊かな大地に貢献できるように尽力したい」と気持ちを新たにしました。同制度は22年度からスタートし、道内86人が認定を受けています。昨年度は上川管内で2人が認定を受けました。新たに斉藤さんが加わり、同管内の青年林業士は6人となりました。

て2・6倍、初年度1日7千200キットの不織布製品を生産できる計画だということです。

